

25年7月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成25年 6月20日～ 7月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/7月	8月	9月
入荷動向	国産材	18.8	31.3	25.0
	外材	16.7	22.2	△ 16.7
在庫動向	国産材	25.0	0.0	6.3
	外材	6.3	12.5	0.0

入荷は国産材はプラス基調で推移、外材は7,8月の増加から9月は減少に。
在庫は国産材は7月増加から8月の横ばいを経て9月は増加に、外材は7,8月の増加から9月には横ばいに。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/7月	8月	9月
国産材	0.0	6.3	6.3
欧州材	28.6	21.4	14.3
その他	75.0	50.0	50.0

国産材は7月のゼロから8,9月のプラスに、欧州材及びその他はプラス基調で推移するが9月に向け欧州材のプラス幅縮小。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

- ・欧州材ラミナ7月は遅れ分と通常分重なって入港予定。
- ・8月は製品の動きは良くなると見込むが、盆月であり、入荷量の不安定予想。8月からラミナ発注量増も、製品出荷量も増加し在庫量は横ばい。入荷遅れ解消少し遅れ気味、少し在庫増も、まだ十分でない状況。
- ・国産材は木材利用ポイントで需要出てくる。・国産材は製品増産による入荷増。

(ラミナ価格動向)

- ・欧州材購入価格は徐々に下がると予想。
- ・7月現在の価格は横ばいで推移、8,9月以降、丸太出材減と合板用材増が予想され価格はやや強含み傾向。
- ・為替不安定だが、円安傾向のため今後も価格上昇続く。為替影響による原料高。

25年7月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/7月	8月	9月
生産動向	国産材	31.3	25.0	25.0
	WW集成管柱	8.3	0.0	8.3
	RW集成平角	33.3	8.3	△ 8.3
	米マツ集成平角	50.0	0.0	△ 50.0
	WW集成平角	0.0	0.0	50.0
出荷動向	国産材	18.8	18.8	25.0
	WW集成管柱	0.0	0.0	16.7
	RW集成平角	8.3	△ 16.7	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	50.0
	WW集成平角	0.0	0.0	0.0

生産は国産材はプラス基調で推移、WW管柱は7月の増加から8月の横ばいを経て9月は増加に、RW平角は7、8月の増加から9月にはマイナスに。

出荷は国産材はプラス基調で推移、WW管柱は7、8月の横ばいから9月には増加に、RW平角は7月増加から8月の減少を経て9月には横ばいに。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	25/7月	8月	9月
スギ集成管柱	8.3	△ 8.3	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	16.7
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	30.0	10.0	20.0
RW集成平角	8.3	8.3	25.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	50.0	0.0	50.0
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

スギ管柱は7月プラスが8月のマイナスを経て9月ゼロに、ヒノキ柱、カラマツ土台、米ヒバ土台及びカラマツ平角はともに横ばいで推移、ヒノキ土台は7、8月の横ばいから9月にはプラスに、WW管柱及びRW平角は強含ないし強保合で推移。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き) ・スギ柱をとの話あるが現状国産材だけでは供給量不足でWW、RWも前月同量生産予定。出荷は全てグループ内に供給、物件増も職人不足等で実際の上棟遅れるなど月平均は変わらないと予想。 ・土台 (AQ) は依然引き合いが強く生産も順調、中断面は地域型住宅ブランド事業 (H24) もある程度納品に目処が立ち一服感あり、8月以降は木材利用ポイント関連で小断面、中断面とも出荷増が見込まれ増産予定。物件自体は増加傾向にあるものの現場遅れが目立ち、在庫消費が進まないことから予想以上に一服感強い。8月以降は木材ポイント等の引き合いが徐々に増え、消費税駆け込みや震災復興需要も重なり、物件の増加が期待されるため出荷量増の予想。但し、現場遅れの著しい解消は考えにくく穏やかな増加にとどまるか。 ・製品在庫少なく、もう少し生産増したい。出荷は全体として動いているものの一部では鈍化傾向。 ・国産材構造用集成材は需要が出てきている。 ・国産材製品 (スギEW柱、ハイブリッド) 増産傾向。

(構造用集成材出荷価格動向) ・グループ内価格は変わらないが市場価格は判らない。今の価格は今年一杯で来年からは確実に下がると予想。 ・カラマツは2月に引き続き6月に値戻しを行い現時点でのラミナ値上がり分などのコストUP分吸収できているため当面は横ばいで推移するが木材利用ポイントや地域型ブランド化事業で合板を含むカラマツの需要増が見込まれる。原木逼迫によるラミナ価格上昇の場合競合製品の動向を見ながら更なる値戻しの可能性。 ・市況が一遍したため値上げが止まったが秋口より値上げ傾向は続くものと思う。

・輸入製品下がり気味に伴い国産材も下がると見通す。